

Executive Summary

1. 当該地の現状

- 大和川浸水想定区域（想定最大規模）では0.5m～3.0mのエリアに該当（右図資料1参照）。
- 「想定最大規模」の降雨規模は1000年に1回程度を想定している。

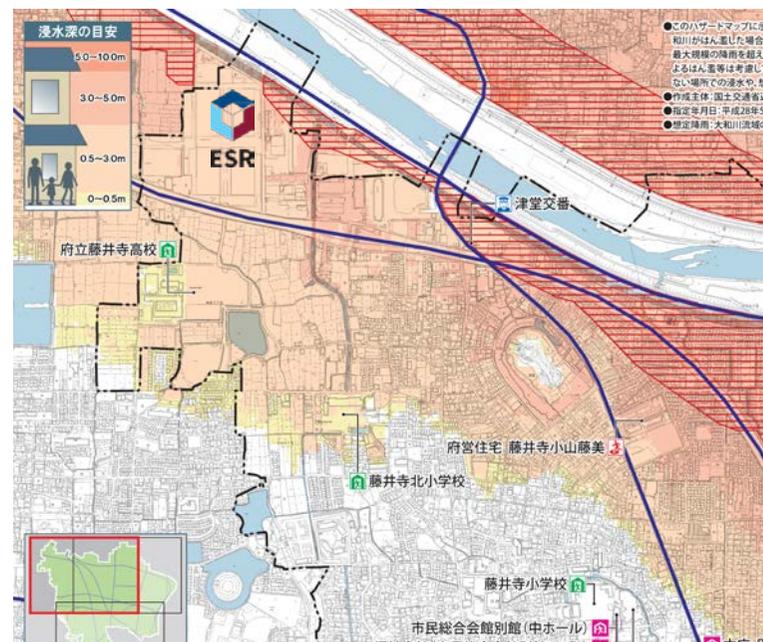
2. 大和川の氾濫履歴

- 大和川沿いにおいて浸水被害がたびたび発生しているが、RW藤井寺（河口から約15km）周辺においては、大きな浸水被害は発生していない。
- 1955年以降の過去66年間で最高推移を記録した2017年10月の台風21号の影響については、大和川上流の奈良県三郷町、大寺町（河口から26～27km）付近で溢水被害があり、さらに上流の広範囲で溢水被害が発生している。
- より西側の大阪府では、中流の柏原市（河口から21～22km）付近で溢水被害が発生しているが、上記の通り、RW藤井寺周辺にかけては溢水被害は発生していない。

3. RW藤井寺の建築時の判断基準

- 藤井寺については、右図資料2の通り落堀川地区の高規格堤防整備工事は完了しており、大きな浸水被害は発生しておらず、浸水被害のリスクは高くないと判断し、グラウンドレベルの嵩上げは行っていない。
- 電気設備等については、建物外にて基礎高1.2mまで上げる通常設計としている。

資料1



*大和川浸水想定区域（市域西部）参考

資料2



*高規格堤防整備箇所参考